



マックシールプレス

9月10月11月合併号

今回9月より院内行事多忙につき、発行が遅れました。申し訳ありませんでした。

3ヶ月合併号として、装いも新たに発行させていただきます。



対談 part 1 内科について

田中 雅也副院長

井上 俊宏医師

小田垣 今月は「内科について」ということでお話をお伺いしたいと思います。まず最近の外来についてはいかがですか？

田中 そうですね、昨年の春頃から見ても1日に250名前後の患者さまが来院されています。そのうち、内科系で来院される方は全体の約20%前後とほぼ横ばいの状況です。

小田垣 田中先生も井上先生も消化器がご専門ですが、内科系疾患で来院される方のうち、内視鏡検査が必要な方はどのくらいおられますか？

田中 内視鏡検査はこの2～3年は約800件前後です。このうち、大腸内視鏡は約180件前後で全体の20～30%を締めています。昨年は1000件を超え、大腸内視鏡も230件と増加しました。

これは、昨年5月に井上先生が着任して頂いたお陰です。

井上先生は、胆管・すい臓関係の疾患の専門医でもありますので非常に心強く思っています。

井上 なかなか胆管膵臓系の疾患は、こちらでは診察はしておりませんが(笑)

小田垣 胆管膵臓の専門医というのは、なかなか貴重な存在だと思いますがね。まだまだ地域の方や医療機関の方にも浸透していないのかもしれないですね。

腹部造影やERCPなどの特殊検査にも精通されており、今後ご活躍の場も増えてくると思います。外科の打越先生も含めて、異病院は腹部領域の疾患にも絶大な力を持っていると思います。

井上 有難うございます。ご依頼があれば、診療させていただきます。

小田垣 あと健診関係についてはどうでしょうか？

田中 当院では、健康管理センターが住民健診や企業健診などを行っていますが、この中で、内科的な異常が発見できればその後のフォローを外来で行ってきたいと考えています。

現時点では、定期的に検査等でフォローが必要と思われる方も年1回の定期健康診断しか来られないのが実情で、健診を受けられた方へ積極的に受診を勧めていかなければならないでしょう。



《田中副院長》



《井上医師》

小田垣 有難うございました。これからの内科についてお話をお聞かせください。

井上 現在は内科として、一般内科と消化器を診療しています。

内科のため糖尿病などの疾患も診療しておりますが、特に専門性の高いものは他施設に紹介させて頂いております。

内科として出来る範囲の診療と専門性として、消化器(胃内視鏡、大腸内視鏡)の診療をがんばって行きたいと思っています。

田中 健康管理センターのより積極的な活動と内科医との連携を充実させていくこと。

また、地域の先生方への積極的な広報と連携の強化が必要でしょう。

部署紹介

巽今宮病院 薬剤科

マネージャー 山口千恵

美しい箕面の山々に囲まれ、ゆったりと落ち着いた環境の中にある巽今宮病院は、地域密着型の温かい病院作りを目指しています。その中で働く私たち薬剤師は、現在3名体制でがんばっています。薬剤師の仕事は、薬品の管理から調剤・監査等様々ですが、ここ今宮で特に力を入れているのは、服薬指導です。

外来の方々には勿論、入院の方々そしてご家族にもお会いして、患者様の生の声を聞き、互いに考え学ばされています。先日もこんな事がありました。あるご家族が、新聞の切り抜きを持ってきて下さいました。それはパーキンソン病を取り上げたものでしたが、その記事によって私達は新薬の情報も学ぶことができました。また毎日起床時に燕下の困難な薬剤を服用し、その悩みを訴えていらした患者様には、同じ成分の一週間製剤（週に一度だけの服用）が出来たことを伝え、現在はその薬に変わり喜ばれています。

外来で毎週リハビリにいらっしゃる患者様の中には、必ず薬局に声をかけて下さる方がいます。そんな方が決まった曜日にいらっしゃらない時には、何かあったのかと心配してしまいます。このように、患者様及びご家族とは、巽今宮ならではの触れ合いがあり、これからも大切にして行きたいと考えています。



《 薬剤科 小谷・山口・青木 》



《 管理栄養士(左前：山原 ㈱テスティパルの皆さん) 》

巽今宮病院 栄養科

管理栄養士 山原かおり

巽今宮病院の栄養科は、病院管理栄養士1名と給食委託会社の管理栄養士1名、調理師2名、パート5名で毎日患者様においしい食事をお届けしようとがんばっています。

患者様の病気はもちろん身長、体重や栄養状態、また嗜好や歯の状態、飲み込みの状態なども見て、その患者様に適したお食事を提供しています。

また入院中でも四季を感じていただけるように、季節に合わせた行事食を提供しています。年末年始はクリスマスや大晦日、正月とたくさん行事があるので今から栄養士と調理師とで何を作ろうかと考えています。

患者様にしっかり食べいただいてリハビリや治療をがんばることができるように、そして喜んでいただけるお食事を作っていきたいと思えます。

院内行事

医療連携

ネットワークカンファレンス

地域での医療完結を目指した医療連携を推進していくため、「第2回医療連携ネットワークカンファレンス」を平成19年10月27日(土)豊中市のホテルアイボリーで開催いたしました。

当日は、池田市・箕面市・豊中市・吹田市・茨木市・川西市と多方面から多くの先生方がお集まり下さいました。

【医療連携ネットワークカンファレンス】

《内容》

- 1.急性心筋梗塞 ～初回心電図診断困難症例～心臓血管センター室長 小田垣医師
- 2.乳腺疾患の診療について 相原病院 相原副院長
- 3.増え続ける糖尿病対策 市立川西病院 伊藤院長



《 会場風景 》



《 座長：巽孝彦理事長 》

巽今宮病院 秋祭り開催

平成19年10月18日(木)箕面市にある巽今宮病院において、秋祭りを開催いたしました。ご入院中の患者さまやご家族様、地域の皆様・自治会の皆様等多くの方がお越し下さいました。やきそばコーナーやベビーカーは大人気でした。

また、青く澄み渡った青空に、箕面市少年少女リコーダ合奏団の皆様による音楽やスタッフのフォークソングなどの歌声が響き渡りました。とても楽しい日となりました。有難うございました。



《 秋祭りでにぎわう巽今宮病院 》

巽救急フォーラム 開催

巽病院介護老人保健施設5階において、地域でのより良い救急医療を確立していくことを目的に、北摂豊能地区の消防隊員の皆様と第3回目の巽救急フォーラムを開催しました。

心臓血管科の蓑原医師・小田垣医師の講演に引き続き、消防隊員の皆様と当院スタッフとのディスカッションを行いました。

当院からは巽院長をはじめ、心臓血管科・内科・整形外科の医師と、救急外来の看護師はもちろん、病棟からも多くの看護スタッフが参加し、消防隊員の皆様と率直な意見交換を行いました。



《 左：小田垣医師による講演 》



《 救急隊員の皆様と当院スタッフとのディスカッション 》

院内行事

池田市民健康祭り

平成19年9月2日(日)池田市民文化会館において、「第16回池田市民健康まつり」が開催されました。当法人からも、大阪府看護協会の一員として看護職員や老健スタッフが参加し、体脂肪測定など健康チェックをさせていただきました。



また、石橋・異地域包括支援センターも「健康寿命を考えよう」と題した紙芝居を行うなど参加しました。

地域包括支援センター
《 左2番目から渡邊・宮崎・吉良山 》



《 中谷副院長・武内師長 》

合同慰霊祭

当法人において、惜しむなくもその人生の幕をおろされた方の御霊を慰めるため、平成19年11月17日(土)池田市鉢塚の一乗院において合同慰霊祭を行いました。今年で3回目となります。

当日は、ご遺族様46名、異病院・異今宮病院・異老健・居宅介護事業所など法人のスタッフ66名が参加させていただきました。



《 合同慰霊祭 》

【病院は負けない】大阪病院学会抄録集に掲載されました。

第14回 大阪病院学会 『病院は負けない』
平成19年11月11日(日)グランキューブ大阪(大阪国際会議場)が開催され、当法人から5つの部署が学会発表いたしました。

- *「看護部主体の管理～ベッドコントロールの現状～」
異病院 看護部
- *「おいしく安全な食事の提供への取り組み」
異今宮病院 栄養科
- *「腎質管理部の物品管理」
異病院 腎質管理部
- *「MRCP用陰性造影剤評価テストの結果と考察」
異病院 放射線科
- *「介護職員の認知症高齢者に対する「イライラ感」の改善に向けた研修会の取り組み」
異病院介護老人保健施設 管理室



《 大阪病院学会抄録 》

【新鮮！ボランティアの心】に掲載
京都大学より、学生さんの医療体験ボランティア活動(外来患者支援ボランティア実習)を異病院でも本年度から受け入れを始めました。その報告雑誌「新鮮！ボランティアの心」(京都大学医学研究科発行)に掲載されました。

京都大学：
ボランティア活動を掲載した雑誌
「新鮮！ボランティアの心」



お知らせ

【 Doctor's Attention 】 に異理事長の記事が掲載されました。

医師向けの広報誌

『新しい医療文化の創造 Doctor's Attention』2007年11月号
“病院長シリーズ”欄に「より質の高い医療とケアを提供するために、
快適性の追求から円筒型になった建物」と題した異理事長の記事が
掲載されました。

異病院 外来待合ロビーにその記事(コピーしたものです)を設置して
おりますので、ご自由にご覧ください。



《 ドクターズ アテンション 「病院長シリーズ」 》

【 救急看護 】 の救急治療について中谷副院長が執筆いたしました。



《 救急看護 》

救急看護の現場体験を土台にする日本救急看護学会の指導者の方々に
編集された救急看護の基本書

『救急看護』～急性期病態にある患者のケア～（発行：医歯薬出版(株)）

心臓停止など特有で必須の病態と看護について書かれた
「第Ⅲ編 救急治療 B.救急領域の特徴的な病態とケア」のなかで、
「CPAOA(来院時心肺機能停止)」について、中谷茂子副院長が
執筆いたしました。

【 建築ジャーナル 】 に異理事長の記事が掲載されました。

建築に関する専門雑誌『建築ジャーナル』2007年12月号

“特集／設計の現場から

ニッポンの医療 ニーズはここにあり！”の記事として

「病院設計の冒険 異今宮病院」と題した異理事長の記事と
異今宮病院の外観や内部施設の写真、病院の詳細な図面などが
掲載されました。



《 建築ジャーナル 》

第四回 異健康フォーラム 開催のご案内

日時：平成20年 1月26日(土)
午後00時30分～午後4時00分頃まで
場所：池田市民文化会館



《内容》

1. 午後00時30分～午後2時00分
体験コーナー(脳年齢・体脂肪・ストレスチェック等各種健康測定、
健康相談、介護相談)

2. 午後2時00分～午後4時00分

市民公開講座

予定講座

- | | |
|----------|-----------------------------------|
| ・便秘症について | 外科部長 打越史洋医師 |
| ・(未定) | 内科 井上俊宏先生 |
| ・こころの健康法 | 学校法人宣真学園 学園長 高岡義雲先生
宣真高等学校 学校長 |



《第3回(前回)の市民公開講座会場風景》

参加自由・無料です。皆様のご来場を心よりお待ちしております。

病気アラカルト

便秘症
のおはなし

外科部長 打越医師

現代社会は「ストレス社会」とも言われ、また「高齢者社会」が到来しています。このような背景から排便障害を訴えられる患者さんは急増しており、臨床上的重要な課題になっています。排便障害として過敏性腸症候群(食べたらずる便意をもよおすような状態など)や便秘症は加齢とともに増加することが明らかとなっています。快便を得るためには食物繊維摂取を心がける、水分をしっかりとる、スポーツや運動をする、など日常生活での心がけが大切です。

「便秘だから下剤を飲めばよい」と簡単に考えて、常日頃から下剤を服用されている方もいらっしゃいますが、その乱用は弛緩性便秘(大腸の運動が低下した状態:高齢者に多く、便秘の半数以上を占めます)でさらに症状を悪化させる危険性があり、注意が必要です。また時には便秘が大腸癌の初発症状であることもあります。来年1月の異健康フォーラムではこの便秘症について詳しくお話したいと思います。